

もっと進化する長崎へ

今年4月に3期目がスタートした田上富久長崎市長に、これからのまちづくりについて語っていただきました。



田上富久（たうえ とみひさ） 昭和31年生まれ。58歳。昭和55年長崎市役所入庁。観光振興課主幹・統計課長を経て、平成19年、市長に初当選。県市長会会長、日本非核宣言自治体協議会会長、平和首長会議副会長

こんにちは。今回、改めて長崎市長としての重責を担わせていただくこととなりました。

経済も社会も政治も大きく変化する中、これからの4年間は、長崎のまちづくりにとって正念場の時期となります。長崎がさらにレベルアップできるよう、**次の時代の基盤づくり**が市長としての役目だと考えています。10年先を見据え、

「世界を身近に感じるまち」

「長崎型暮らしやすいまち」

「全員プレーヤー型のまち」

を目指してまちづくりを進めていきたいと考えています。

世界を身近に感じるまち

（世界都市）

◆交流のまち長崎の強みを活かす

日本全体の人口が減っていく中、国内

観光客も減ることが見込まれます。長崎をもっと活性化させるためには、これまでの観光客だけではない新たな交流人口を獲得することが重要です。

外国人観光客の受け入れやMICE（会議やイベントなど）に力を入れることは、国内外との交流で栄えてきたまちである長崎に合った活性化策の一つです。

◆まちの個性を磨く

長崎のまちの魅力を高めるためには、ここでしか見られないもの、ここでしか体験できないもの、といった長崎らしさ、個性を磨き上げる必要があります。

世界新三大夜景に認定された夜景観光においては、鍋冠山公園展望台をリニューアルし、さらに楽しめるようになります。また、銅座川に新たな遊歩道（プロムナード）の整備を進めるなど、まちなかの魅力を高める「まちぶらプロジェクト」を推進します。





◆平和は長崎から

今年是被爆70周年の節目の年です。継承と発信の拠点である原爆資料館をリニューアルします。今後もあらゆる機会をとらえ、被爆者の方々の想いを継承するとともに、長崎らしいやり方で平和を発信していきます。

世界の人が往来し、世界とつながるまち、世界に貢献し、世界に評価されるまちを目指すことで、市民が世界を身近に感じるまちになると思います。

長崎型暮らしやすいまち

(人間都市)

◆人口減少への対策

長崎が直面している人口減少は緊急に取り組むべき課題です。もっと子育てしやすいまちにすること、それから、働く場をもっと増やすことが大切です。

子育て支援策として、こどもの保育や医療に関する負担の軽減や地域での子ども居場所づくりといった環境整備に取り組みます。また、創業支援や地場産業の活性化に力を入れるほか、企業誘致のために用地整備を行います。

◆より暮らしやすいまちへ

誰もがいつまでも住み慣れた地域で生活したいもの。狭い道でも車が入る「車みち」の整備の拡大や、医療・介護・福祉の連携による「長崎版地域包括ケアシステム」の構築を目指すなど、長崎らしいアイデアや方法で暮らしやすいまちづくりに取り組めます。

また、市民サービスのさらなる向上と

市民に対する安全性の確保という点から、市庁舎の建設に道筋をつけます。

全員プレーヤー型のまち

(つながりと創造)

時代が変化する中、皆で力を合わせないと解決できない問題が増えてきています。私を感じるのは、「当事者が多いまちは元気なまち」ということ。長崎がこれから目指すのは、皆が当事者としてできることを少しずつ出し合う「全員プレーヤー型のまち」。まちをさらに元気にするための仕掛けづくりに取り組みます。

市役所は、市民の皆さんによる地域活動を、分野ごとだけでなく地域ごとに見て、縁の下で力持ちとして支えるプレーヤーになっていく必要があります。地域ぐるみの健康づくりなど地域のまちづくり活動を支援するための市役所側の体制を、今後作っていきます。

さらに、「長崎のまちをみんなでつくる」という気持ちを共有するための、長崎版の自治基本条例（仮称）長崎市よかまちづくり基本条例】の制定を目指します。

次の時代の長崎へ

「大きな変化の時代」である現代。こういう時代には、変化をチャンスとして捉え自ら変化していくことで、長崎の未来も広がります。

次の時代に向けて、一緒に、長崎のまちをもっと進化させていきましょう！

